

## 電子展示委員会活動報告

### 電子展示委員会

#### 「ちりめん本」を公開

平成18年度、関西大学図書館電子展示委員会は、これまでの展示とは趣向を変え、欧文資料の電子展示による公開を行った。その欧文資料とは、縮緬布に似た質感を与えられた和紙であるちりめん紙の上に、挿絵を印刷した和綴じ本で、いわゆる「ちりめん本」と呼ばれるものである。

公開点数は12点、その12点のうち、ちりめん本の代名詞ともなっている最も知名度の高いJapanese fairy tale seriesの作品は1点のみである。これは、Japanese fairy tale series以外のあまりよく知られていないちりめん本を紹介しようとした意図に基づいている。

公開した12点のいずれも、全ページ及び全文公開とし、本文は欧文をテキストファイルで作成して画像とともにWebサイトに掲載した。本文をテキストファイルで作成したのは、画像を拡大表示させても文字部分が判然としなかったことへ対応するためである。また同時に、サーチエンジンの検索対象となるように電子テキスト化することで、今回公開対象としたあまり有名でないちりめん本へのアクセシビリティを高め、ちりめん本研究の一助となることを考えたためでもある。

ページの遷移の方法は12点のいずれも同様で、ちりめん本トップページから各資料の紹介ページ、資料本体のページへと遷移する。

平成17年度八代集の公開の際には、Javaを用いて国歌大観番号をキーに閲覧者を導くということをしたが、アクセスにタイムラグが生じるという短所があったため、今回は次頁・前頁のボタンのみ作成して、それで遷移していくという形とし、Javaは使用しない扱いとした。資料のそれぞれが大部なものではなく、かつ、始めから終わりまで通して見る類のものであったことも上記の手法を採用した理由となっている。

画像の作成方法は平成17年度と同様に、まずカラーマイクロフィルムを作成し、それをスキャニングしてtiffファイルを作成、さらにそれを圧縮してjpegファイルに変換した。また、画像のみを大きく表示させるため、tiffファイルから大小2種のjpeg画像も作成した。画像作成に関する上記のすべては、業者委託によるものである。

サイトの設計に関しては、従来の公開用HTMLの作成だけに留まらず、サイトフローの作成及びサイトデザインの案出まで、業者に依頼した。そして当委員会では業者の提案に対してその是非を判断するという形をとることにした。そうした方が、実際にサイトを作成する際に、一貫したものを作ることができると思ったからである。

コンテンツの正式公開は平成17年度同様、10月末としたが、上記のように、業者に委託する範囲を広げ、当委員会内での調整の必要を軽減させたことで、今年度はより迅速にコンテンツの作成を完了させることができた。具体的に言うと、コンテンツの作成自体は、業者との打ち合わせの始まった6月から9月の中旬までに完了している。

コンテンツ公開後は本学広報課発行の新聞やプレスリリースを通じて、学内外の広きに亘って広報された。平成16年度の伊勢物語から、徐々に取材等を受けるようになり、関西大学図書館を広報するという当委員会の役割も形になってきたように思われる。

#### 今後の課題等

欧文資料の電子展示による公開を初めて行ったこと、かつ、資料の本文のテキストを全てサイトにテキストファイルとして掲載したこと、業者委託の幅を広げ、当委員会の負担の軽減を図ったことが、平成18年度の活動における新しい試みである。また、ちりめん本を専門に研究する研究者が本学には在籍していなかったため、公開する資料の選択、調査、紹介を当委員会のみで行ったこともそれに加えられる。

しかし、サイトの設計、画像に関する技術的な要件に関しては、新たな試みをする余裕がなく前年度を踏襲するに留まった。

関西大学図書館における電子展示室の役割が図書館広報の一端を担うものであるならば、単にコンテンツを公開するだけではなく、それをより閲覧者が魅せられるようなものにする方法も当然検討していくべき課題となる。その意味で、新技術の動向のリサーチ、業者による新しい提案の検討など、電子展示室のサイトの向上に裨益する試みについては可能な限り追求する姿勢が望まれる次第である。